

2024年5月14日

岐阜市長
柴橋 正直 様

よみがえれ長良川実行委員会
共同代表 粕谷志郎 亀井浩次

長良川的环境保全について（要請書）

私たちは、長良川的环境改善を求め、長良川河口堰の開門調査や木曾川水系連絡導水路事業の中止を求める市民団体・グループです。

岐阜市民の宝であり誇りでもある清流長良川。その象徴ともなる場所での突然の「釣り堀」の開設に、市民は驚き眉をひそめました。そしてそれに起因した「ニジマス流失」惨事に呆れています。貴市がこの釣り堀開設を認め歓迎していたことを知った市民は怒りと失望を感じています。

長良川への外来種の侵入対策が喫緊の課題となっている今日、このようなことが再び起こらないことを願って、この「釣り堀」に関わる経過と今後の貴市の姿勢を明らかにすることを求めます。

現在「国土強靱化」として河川工事が大々的に展開されています。長良川においても「洪水対策」として国、岐阜県が河畔林の伐採、河原の掘削工事を進めています。しかし、長良川らしい美しい景観や生きもの生きる場が失われていく状況に、市民は不安を持っています。治水工事の重要性は理解しますが、長良川の自然と歴史・文化を手放し「世界農業遺産」の認定も手放すようなことになってはなりません。環境保全の視点から、長良川ですすめられている「国土強靱化」工事の見直しを河川管理者に強く働きかけてください。

長良川河口堰は運用されて以来、海と川を行き来する生き物の大きな障害となりました。長良川のアユは、人の手を借りなければ子孫を残せていない状況となっています。私たちは、その生きものたちの実態をしっかり見極め、その障害を少しでも取り除くことに努力しなければなりません。昨年発表された貴市の「レッドリスト」から、「アユ」と「サツキマス」が外されました。行政や経済団体の意向に付度し「生きものたちの実態」から目を背ける姿勢に心配をしています。生物多様性保全を基本に専門家の意見を重視し科学的な視点でレッドリストの点検を行ってください。

本年3月28日木曾川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第8回幹事会）において、当初の約2.5倍の事業費が発表されました。「検討の場（幹事会）」で示された資料を見る限り、事業費増額の主な原因は、導水路本体の工法の変更にあると思われます。しかし、工事内容や工法の変更については詳らかにされていません。環境への影響も当初計画の場合とは異なるはずですが。既「環境レポート」発表からすでに15年近くが経過し、長良川の状況は大きく変化しました。とりわけ国土強靱化によって水辺環境は激変しています。事業者は、改変された工事内容・工法に基づく新たな「環境レポート」

を速やかに作成し、市民的議論に付すべきです。これまでの貴市の「長良川への環境配慮」を堅持し関係機関への働きかけを求めます。

以上の趣旨から私たちは、下記の事項を要請します。回答をお願いするとともに対話の場を設けていただくようお願いいたします。

記

1. 2月1日に開設した「管理釣り場」それに伴う「ニジマス流出」に関わる経過と今後の貴市の姿勢を明らかにしてください。
2. 長良川の「アユ」と「サツキマス」について昨年策定された「レッドリスト」における位置づけを、科学的で市民に納得できる内容で見直してください。
3. 長良川で行われている「国土強靱化」事業に対する環境保全措置を速やかに行ってください。
4. 木曾川水系連絡導水路事業の検証については、新しい条件の下での「環境レポート」の見直しを求めるとともに、「検討の場」においては長良川の「環境保全の立場」から事業中止を求めてください。